

環境分科委員会のプロジェクト

「北東アジア青少年環境シンポジウム」に参加して

(各感想文は原文を一部抜粋して掲載しています。)

○中国 江蘇省参加者

今回のシンポジウムでは、中国、日本、韓国とロシアの学生が一堂に集まり、各自の行った水環境保護に関する活動状況について交流しました。シンポジウムの期間中、わたしたちは野外実践活動に参加し、水質の簡易測定方法について勉強し、また、専門家による水環境保護に関する講演もいただき、水資源保護に関する知識をたくさん学びました。今回の活動は、期間が短かったのですが、得るところが極めて多く、深い感銘を受けました。このシンポジウムに参加し、水環境保護に関する知識を学べただけではなく、水環境保護の重要性についてもいっそう理解するようになり、環境保護の意識も強まりました。

私の故郷は江蘇省の啓東市です。啓東市は、長江のいちばん下流部に位置しており、東北部は広大な黄海に臨み、南側には長江があります。三面は水に囲まれ、形は半島に似ています。啓東市は水と深いつながりがあり、水は啓東市の人々を育て、啓東市の人達は水環境にもっと関心を持つべきです。海・川沿いの地域で育った私は、未来の水環境を守り担う青少年の一人、また、北東アジア青少年シンポジウムの参加者の一人として、これから、もっと、水環境保護活動に参加して、学んだ知識を活動に生かしていかなければいけないと思います。まず、自分から始めて、次に周りの学生を集めて、一緒に海辺の漂着物調査に参加し、いっそう、人々の環境保護意識を強めたいと思います。また、自分の周りの人達に水環境保護への関心を持ってもらい、水資源の保護に力を入れたいと考えます。

21世紀は希望を満ち溢れるグリーン世紀です。環境保護は全人類の共同の事業です。私達は助け合い、共に努力すれば、きっと、清らかな水と透き通った青空を守ることができると信じています。

○中国 山東省参加者

今年の夏休み中、私は中国山東省の代表として、韓国で開催された北東アジア青少年環境シンポジウムに参加してきました。中国、韓国、日本とロシアの4ヶ国の青少年が一堂に集まり、多くの環境保護に関する知識を学ぶことができ、また、環境保護の意識も高まり、さらに、友情を深めることもできました。また、ごみの埋め立て場や石炭博物館等へ見学に行き、交流会にも参加しました。これらの活動の参加によって、“海洋環境を大事にし、生命資源を守る”という共通の認識ができました。

私の故郷は山東省の煙台市です。煙台市はきれいな沿海都市なので、私は、非常に誇りに感じています。しかし、きれいな海水が汚され、ますます汚くなるのを見て、ほんとう

にもったいないと思いました。工業・農業の迅速な発展と人口の増加につれて、沿岸海域と海洋に富栄養化の現象がますます深刻になり、また、沿海地域の開発と海水養殖業の拡大に伴い、海洋生態環境に破壊をもたらしています。私は、2003年の「日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査」に参加しました。この調査活動は、非常に有意義な活動でした。全部で198人が参加し、8種類の漂着物を663個集めました。そのうち、プラスチックと発泡スチレン類及びガラス陶器類の占める割合が大きかったです。

海洋は私達を育てています。将来を担う青少年の私達にとって、海洋環境を守ることは、当然負うべき責任です。私達は、自分の環境保護意識を高めると同時に、周りの人々にも影響を与えるべきです。また、いろいろな社会実践活動にも積極的に参加し、環境知識を身に付けたいと思います。更に、環境に悪い影響をもたらす行為を発見したら、直ちに指摘するよう努力したいと思います。

今回のシンポジウムは期間が短かったのですが、全ての参加者にとって、収穫の大きい活動になったと思います。この貴重な経験はこれからもきっと忘れられません。各国の青少年は常に一緒に活動することができませんが、共通の認識と願望で私達はずっと緊密につながっていると思います。

○中国 山東省参加者

2日間のシンポジウムに参加し、時間的には短かったのですが、多くの環境保護に関する知識を学ぶことができました。以下は私の感想です。

初日の午後に、水質の簡易測定方法について勉強しました。私にとって、これははじめての経験です。今まで私は、CODやPH等の環境用語に対する理解が足りなかったのですが、日本の研究員の方々の指導と説明を受け、よく理解できるようになりました。この実験はさほど難しくなく、私にとって大変有意義なものとなりました。日常生活の中でも、学校の環境保全に関する授業の中でも、このような実験を体験する機会が少なく、インターネットもそんなに普及していないため、この学習の機会はお貴重でした。この実験は新鮮に感じられ、印象深く残っています。

また、海辺の清掃活動も大変有意義な活動だったと思います。海岸がきれいで、ごみがあまり多くなかったのですが、人間のいろいろな活動で環境が破壊されることが良く分かりました。担当者の方がおっしゃった通り、海洋は人類の共同財産で、海洋環境は全人類に関わっています。当日朝の海辺の掃除では、たくさんのごみが集められていることを知りました。このようなたくさんのごみは決して一人で捨てたものではなく、多くの人が捨てたと思います。環境保全は日常生活から始まり、全ての人に関係することだと改めて感じました。

二日目に、私達は水資源に関する知識を学ぶことができました。我が国の長江洪水と黄河断流および水資源不足等について、突っ込んだ分析を聞きました。近年来、我が国では、退耕還林の対策を実施し、また、黄河で小浪底ダムを修築し、更に南水北引(南方の川の水

(特に長江の水)を北方へ引いて、北方の水不足に役立てること)の工事を実施することで、水資源不足の現状を、一部の地域である程度緩和できました。私の故郷の済南市では、政府と市民の努力で地下水位は 29.42mまでに達し、再び“清泉石上流”の景観になりました。

あっという間の二日間でしたが、今でもまだ記憶に新しいです。環境保全に関する知識を身に付けただけではなく、他の国の青少年と深い友情を結べました。とても有意義な二日間でした。このシンポジウムの主催者に大変感謝しております。お世話になりました。

○日本 新潟県参加者

まず、このシンポジウムに参加できるようにして下さった皆さんにお礼の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

私は、新潟県(私の学校)から一人の参加者ということで、初めは不安だらけだった。正直、出発する前日は「行きたくない」と思っていた。そして迎えた当日。私は「行きたくない」心をいつまでも引きずっていた。でも、帰ってきた今、もうその理由すら覚えていない。それだけ充実した毎日を韓国で送れたということだ。

私は嫌な気持ちのまま空港に行った。だから皆さんがあいさつをして下さった時も、「嫌な感じ」だったかもしれない。でも、ここで私の「行きたくない」をといてくれたのが富山県の中田中学校の3名だ。本当に感謝している。一人でいる私に声をかけてくれた。ここから私のテンションは上がり始めた。

まず、楽しかったことはこの用紙に収まりきれないほどたくさんある。発表は全くと言っていいほど緊張しなかった。前日に知らない人の中に一人で入っていき、度胸がついたのだろう。それと、「言葉の通じない世界だから少しくらい間違っても平気」と思ったからだ。こういう自信は今回確実についたと感じる。また、発表の原稿を作るにあたって、今まで調べたものをもう一度見て考えることができた。そして、自分は素晴らしい環境に住んでいるのだなということを実感した。そして、広い世界を目にし、その環境を保っていくのは自分たちの役目だと感じた。他の発表は、自分たちの狭い世界だけじゃない新しい世界が見えた。狭い塚野山にいと、考え方も一方的になってしまうが、新たな視野が開けた感じがする。特に印象的だったものは、「水道水を冷蔵庫に入れ冷やしておく」という水の無駄使いを防ぐ方法だ。水を守るためには、「一人ひとりのほんの小さな心がけが第一歩」ということに気付いた。環境についての活動では、漂着物調査が一番楽しかった。私は体を動かして何かをするのがすごく好きだからだ。今まで漂着物調査はやったこともなく、知らなかった。でも、今回やれていい経験になった。韓国のきれいな海ではなく、日本の海でやりたいと思った。そうしたら、すごいことになると思う。日本の海は汚い。海に遊びに行くとごみを見ると嫌な感じになる。海の清掃も兼ねて、ぜひ日本の海でやりたい。

次は、交流についてだ。二日目の夜に交流会があったとき、私は「日本人は消極的だ」

ということを改めて感じた。「日本の子、誰か前に出て」そう言われた時、私も含め、みんななかなか足が前に出なかった。それに比べると韓国、中国、ロシアの人はすぐ前に出てくるし、盛り上がっているし感心した。日本では「ばかばかしい」と思われるかもしれないことを、他国の人には心から楽しそうにやっていた。だから、「誰かに何か言われるかもしれない」というような日本にある息苦しさを全く感じなかった。そして、今までそうしてきた私と、まだそうしている日本人を「小さい」と感じた。また、今回韓国人の友達がたくさんでき、毎日メールをくれる。それがとても嬉しい。

まだまだ書きたいことはたくさんあるけれど、本当に毎日楽しいことばかりだった。そして今回自分が成長できたと思う。「成長」というより今までとは違う自分の一面を確認できた。今までならやらなかったり、面倒くさがったり、あきらめたりしていたことができるようになったし、今まで話しづらかった友達にも平気で話しかけられるようになった。シンポジウムの本来の目的に加え、これも大きな収穫だった。これが今回私の学んだことだ。

○日本 富山県参加者

今回、北東アジア青少年環境シンポジウムに参加することができ、なかなかできない貴重な体験をすることができました。このシンポジウムでは日本、中国、韓国、ロシアの中学生の皆さんと各国の環境問題や環境保全活動について様々な意見を交わすことができ、帰国してからの活動をするにあたり大変参考になったと思います。

また、環境問題への関心が深まり、どう対処していけばいいのか、自分たちには何ができるのか、などを考える良い機会となりました。

夜の交流会では、韓国の伝統的な遊びやカラオケ、ボーリングなど、とても楽しむことができ、各国の中学生と交流を深めることができたと思います。

さらに、修練院近くの浜辺では漂着物調査などの共同野外環境保全活動を行い、漂着物こそ少なかったですが、生活からのゴミや、産業からのゴミ、不法投棄などによるゴミなど様々なゴミが漂着するそうです。海から生命は生まれたのだからこの海をきれいにし、自分たちの子孫に残さなくてははいけないと思いました。

この北東アジア青少年環境シンポジウムに参加し、環境について自分たちの意見を考え直す場となりよかったと思います。またこのような機会があれば是非参加したいと思います。

最後にこのような機会を与えてくださったN P E Cの皆さんや先生方、両親に感謝したいと思います。

○日本 富山県参加者

8月21日、22日に韓国で、日本、中国、韓国、そしてロシアの4ヶ国の青少年たちによる「北東アジア青少年環境シンポジウム2004」が開催されました。僕は日本の代

表として中田中学校の友達二人と共に参加させていただきました。韓国へ向かう飛行機の中、僕の心の中は、これからどんなことが待ち受けているのだろうという期待と不安でいっぱいでした。

活動発表会では、各国の代表9グループが自分たちの行っている環境保全活動について発表しました。中田中学校でも科学部が中心になってアシツキ、トミヨ、ホタルを中庭のビオトープで人工的に飼育しています。中学生だけでなく地域の方と協力して水環境を守り、水清く緑豊かなホタルの里を目指して日々活動していることを具体的に発表することができたと思います。

発表の中で僕が特に印象に残っているのは、ロシアのペレピョールキナ ポリナさんの「沿海地方におけるハスの花の保全」についての発表です。彼女たちは、環境変化に敏感で環境汚染が発生した場合、真っ先に枯れてしまうハスの花を保護しようと一生懸命に取り組んでいました。将来のために人工栽培を行っていると聞き、僕たちがアシツキ、トミヨ、ホタルなどをビオトープで人工的に飼育している活動と共通していると思いました。遠く離れたロシアでも僕たちと同じ思いで環境を守ろうと取り組んでいることを知り、これからも環境を守り育てていこうと思いを新たにすることができました。

また交流会では、韓国の伝統的な遊びやダンスを楽しみ、たくさんの友達を作ることができました。特に席が隣だった韓国の田君や申君とは意気投合することができ、これからも文通し、交流を深めていきたいと思います。

このようなすばらしい機会を与えてくださった環日本海環境協力センターの皆様、お世話してくださった先生方、本当にありがとうございました。これらの経験を今後の学校生活に生かしていきたいと思います。

○日本 富山県参加者

僕は、「北東アジア青少年環境シンポジウム2004」に参加させていただいて、とてもいい経験をさせてもらいました。初めは、日本以外の国の韓国や中国、ロシアの人達とうまく交流できるのかということが、大変不安でした。初日の出発の日は、結団壮行式で参加者代表として、結団の言葉を述べ、韓国へと向かうことができました。

2日目にこれまでの環境保全活動の発表会と、海辺で共同野外環境保全活動を行いました。また、夜には外国の人達との交流会がありました。環境保全活動発表では、各国の同世代の人達が現在の環境に対してどのような考えを持っているのか、そのためにどのような活動をしてきたのかが、わかることができてとてもよかったです。自分たちの発表も成功できるか心配だったけど、スムーズにうまくできたと思うのでよかったです。海辺で行った共同野外環境保全活動は、プラスチック類やゴム類、紙類、布類などに種類を分類して、ゴミを拾いました。あまり、落ちていなかったけど僕達が拾う前のゴミ袋を見るとたくさんのゴミが入っていたので、驚きました。この中には、外国からきていたゴミもあるので、海にゴミを捨てると言うことは、海外の海も汚すことになるのでゴミを絶対に海

に捨ててはいけないし、海を大切にしないといけないとおもいました。3日目は、視察に行ってきた。ゴミ埋め立て地、冷風浴場、石炭博物館を見ました。冷風浴場は、冷たい空気を利用してマッシュルームが栽培されていたので、すごいなと思いました。

この3泊4日という短い期間だったけど、たくさんのことを経験し、いろいろなことを学ぶことができました。また、外国との交流ができ、よい友達ができたので本当によかったです。このシンポジウムに参加できたことを今後役に立てていけるようにしたいです。

○日本 富山県参加者

私たちは今、とても便利な生活を送っています。電気や水道が通っていて、飲み水にも食物にも困ることはありません。しかし、このシンポジウムの各国の活動発表を通して、これらの生活によって生じる様々な環境問題について考えさせられました。そして特に深く考えたのが、生活排水についての問題です。水は、すべての生き物において不可欠なものです。ですがその水を使用することによって、多くの河川や海洋を汚染していることを知りました。中国には、水の大切さと美しさを謳歌する詩歌が数え切れないほど多くあるとききましたが、その美しい水を、私たちは生活廃水によって汚しているのです。下水処理施設でも、完全にきれいな水に戻せるわけではないそうです。台所用洗剤やトイレ用洗剤などの合成洗剤を流すことによって下水処理の仕組みが壊れてしまうことも知りました。地球上にはきれいな水を口にすることができない人々が大量にいるにもかかわらず、私たちの生活には節約できる水が多くあります。そしてその節約方法は、少し気をつければ簡単にできることだということが分かりました。つまり水質汚染はとても身近な問題で、私たちのちょっとした行為によって大きく左右されるということです。

また水質簡易測定法実習で、水の透視度、COD、pHを測定すると、目では見えなかった水中の有機物を数値で表すことができました。500倍に薄めたジュースのCODの測定では、とても高い数値が出ました。数値が高ければ高いほど水が汚れていることを示すことになるのですが、少量のジュースがこんなにも水を汚染してしまうのかと驚きました。そして自分たちがどれだけ有害な水を流し、汚染しているのかを考えました。

シンポジウムで学んだことはこれらの生活廃水の問題だけでなく、産業廃棄物や海辺の漂着物などの多くの環境問題を知ることができ、自分たちがどれだけ環境を破壊しているかも知ることになりました。そして美しい環境を取り戻すためには、私たちの小さな環境への気遣いがとても重要であるのだと実感しました。

○日本 富山県参加者

環境シンポジウムに参加して、他の日本の参加者の方々、各国の参加者の方々や、川上助教授の話の聞き、環境について知ることができて、環境に対する気持ちが好奇心の枠を越えてどんどん広がっていきました。

他の方達の発表を聞いて、驚いたことがいくつかあります。まず、考え方の違いです。

たとえば、同じ生物保護でも、pHやCODなどを調べ、そのままの環境を維持しようとしているものや、豊かで住みやすい環境を新しくつくっているものがなど、同じ「環境」をテーマにしているはずなのに、個人個人での考え方はまるで違うものなのだなと思いました。

次に驚いたのは、内容やそれぞれの考えは違っても、いきつく先は一緒なものが多いという事です。それは、「環境に優しい生活をする」や「皆で環境は大切だ」という意識を高める」などといったことで、誰もが一度は考えたことのある、しかし最も難しいことです。

便利な生活に慣れてしまった今、「これから化学薬品・車・電気製品を一切使わずに環境に優しい生活をしよう」なんてことは無理だと思いますが、発表にあった「水の節約」や「水質環境保存及び対策」などと言われたことの一部程度ならば無理なく実行することが出来るのではないのでしょうか。また、一人だけでは無理でも家族や友人などの周りの人にこの話題を広めていけば、全員ではなくても何人かは実行してくれるはずで、その何人かがまた何人かに広めていってくれば、やがてはかなりの数に達するでしょう。これだけで、今より少しは環境に優しい生活ができるし、呼びかけることにより、実行できなかった人も頭の隅に残して置いて、気が向いたときに一つでも実行してくれる程度に意識してくれるかもしれないのです。

環境シンポジウムで学んだ事は環境のことだけでなく、一つの事の中のそれぞれの意見を聞くことによって物の見かたを変える大切さや、無限にひろがる可能性を見つけることなど、他にもいろいろ学ぶことができました。

環境シンポジウムに参加できて、環境に対する意識を少し膨らませることができ、本当に良かったと思います。また、この経験を活かして、微力ながら環境改善に努めたいと思います。

○日本 富山県参加者

今回の北東アジア青少年環境シンポジウムに参加させて頂くことになり、初めはすごく不安でした。しかし、いろいろな方が親切に接して下さり、参加した結果、活動発表、水質簡易測定法実習、水環境についての環境学習などにより、いろいろなことを学ぶこともできました。また交流会などでの異なる文化の人たちとの交流も大変貴重な経験になり、参加させて頂いて本当によかったと思っています。

シンポジウムの時、同世代のいろいろな国の人たちの発表を聞いて、例え国が違っても環境保護をすべきだという強い意志、またこれからは自分たちが環境を守っていかなければいけないという思いは世界共通だ、と環境保護の大切さを改めて実感しました。自分のために、みんなのために、そして次の世代のために、これから環境を守っていくのは私たちなのです。

また発表の他にも水環境についての話や、環境家計簿についての話なども聞くことができ、自分たちの出した生活排水が水汚染の原因となったり、電気、ガソリン等の使いすぎ

が二酸化炭素の排出から地球温暖化の原因となったりすることを学びました。

例えば、有害な物質を流さない、洗剤やシャンプーの使いすぎを防ぐなどという身近なことからそれを抑えることができます。しかし、私は普段から見ていないテレビをつけたままにしていたり、暑い日はつい冷房の設定温度を下げすぎたりしてしまうことがよくあります。

いくら身近なことから努力すればできるといっても、環境を常に意識して行動しなければ実行は難しいと思います。でも、今回のシンポジウムをきっかけにして環境に対する意識をさらに強め、これからは少しでも環境にやさしい生活をしたいと思いました。そしてできれば美しい地球環境のまま次の世代にバトンタッチしたい、しなければならぬと強く実感しました。

最後に、このような貴重な体験をする機会を与えてくださった先生方、環日本海環境協力センターの方々などに心から感謝したいと思います。

○日本 富山県参加者

僕は、シンポジウムに参加することができてとてもうれしく思います。そして、いろんなかたがたの前で「私たちの清掃ボランティア活動」についての発表を成功させることができ本当にうれしかったです。最初はすごく不安な気持ちでした。その理由は、ここの部分を間違えたらどうしようと何回も困ったりもしました。でも、友達や先生のおかげでいい発表ができたと思っています。それに、韓国、中国やロシアの発表もすごくよくてもっと環境を守ろうと言う気持ちになりました。

韓国での漂着物調査は朝、ボランティアのかたがたが清掃を行っていたため漂着物は少ししかありませんでしたが、その少しの量でも拾えばいいことをしたなと思いました。

交流会では、韓国、中国、ロシアのかたがたと楽しく歌やダンスやゲームをたくさんやりましたが、みんながすごく親切で明るくてとてもよかったと思っています。

○日本 石川県参加者

今年の夏、私は父の仕事をきっかけに韓国のポリョン市に北東アジア青少年環境シンポジウムというものに参加しました。内容は北東アジアの青少年が環境についての調査活動を発表したり、先生達の講演を聴いたりしました。また、水質簡易測定法の実習や、近くの海での海岸漂着物調査もありました。

活動発表では各国の代表が自分達の学校や地域で取り組んだ事とその結果について発表していきました。日本はホタルが生息している＝その地域が水がきれいであるということからホタルについての関心が高いようで、それを調べている所がいくつかありました。

富山県の中田中学校ではその地区がアシツキノリという藍藻類の植物やゲンジボタル・ヘイケボタル及びトミヨという魚の生息地とされ、富山県の天然記念物に指定されました。1995年には地域の協力などを得て中田中学校中庭に学校ビオトープ「郷里の泉」が造

られ、4年後に「ホタルの水路」も増設されたそうです。そこでそれらの生物を人工的に生育することに成功し、一般にも公開されているそうです。私は地域全体で保護活動をし、常にそんな身近な所で環境と向き合っている学校を知ってとても感心しました。

水質簡易測定法の実習では透視度・COD・PHの測定を行いました。CODとは水の汚れ度合いのことで値が大きいほど汚れていることが分かります。私達が普段使っている水道水は5ppmに対してポカリは500倍に薄めても20ppmでした。pHとは水素イオンの濃度のことで水の性質が分かります。この二つはパックテストという方法で測定したけど、そんなに難しくなくおもしろい体験でした。

その後、近くの海へ行き海岸漂着物調査を行いました。韓国では有名なビーチらしく、たくさんの方が来ていてゴミもたくさん落ちていたけど、日本のビーチと比べたら日本はなんて汚い海岸なんだろうと思いました。そこには様々なゴミがあり、その海岸ででたものだけでなく、外国のゴミなども海を伝わって流れてきていました。スタッフの人が「みんな自分の物は大切にしますね。海はみんなの物です。だからみんな海も大切にしてください。」と言いました。私はみんなの物と言うことは自分の物でもあり、そのみんなの海をそれぞれが大切にすれば汚す人がいなくなり、きれいな海が保てるなと思いました。

水資源については、日本やロシアは豊かな方ですが今回参加している中国では地域によって一部水不足が深刻な所もあるそうです。また、間接水と言って輸入食品を作るのに必要な水など直接使っていない水があります。日本は多くの輸入品に頼っています。ということは、多くの水を外国から輸入しているということにもなるのです。水は循環していて、降雨→森→川→海→蒸発→降雨となっています。どこか一部分でも汚染されてしまえば全体の水が汚れてしまいます。

私はこのシンポジウムに参加して、今まで全然気にしてなかった環境問題を少し身近に感じられました。そしてたくさんを知ることができました。環境は日本だけの問題じゃなく世界に繋がっているんだと思います。今、地球的規模の環境問題の一つに地球温暖化があります。世界のCO₂排出量の上位4カ国目に日本が入っています。少しでも二酸化炭素を減らすために屋上やベランダなどに緑を増やしたり、家庭では電気の節約に心掛け、近場への移動に車を使うのを避けるなど、自分達にもできることがいろいろあります。これからは環境を守ろうという意識を少しでも高めて行けたらいいと思います。

○ロシア 沿海地方参加者

現在、人類にとって環境問題及び水質汚染問題は、最も注目を浴びる問題です。環境問題を解決するため、我々は協力し全力を尽くすべきだと思います。更に、環境問題の重要性を理解するように、子供のころから環境保全に関心や興味を持つように教育することも大切です。

今回、北東アジア青少年環境シンポジウムに4カ国（ロシア、韓国、日本、中国）の青少年が参加し、地球全体や地域における主な環境問題について話し合うことが出来ました。

環境に興味を持つ青少年達は様々な環境活動や環境問題について発表し、意見交換を行いました。

私は、北東アジア青少年環境シンポジウムに参加し、海外で自分と同じように環境に関する興味を持つ友達を作ることが出来て大変嬉しかったです。このような事業の数をできるだけ増やして、将来、環境問題を解決できる若者を育てることはとても重要であると思います。

○ロシア 沿海地方参加者

今年私は、北東アジア地域における水質汚染をテーマにした「北東アジア青少年環境シンポジウム」に参加しました。シンポジウムに4カ国（ロシア、韓国、日本、中国）の青少年が参加しました。シンポジウムは韓国忠清南道保寧市修練院で開催されました。修練院は、学生たちが夏休みなどに過すための施設です。

シンポジウムの内容はとてもよかったです。基調講演、実習、共同野外環境保全活動などとても面白く、更に遊びや休み時間もたっぷりありました。他の国の青少年たちと話をしながら、彼らの生活と国について様々な情報を得ることが出来ました。

通訳の方と一緒に保寧市を歩き回って見物しながら、韓国の文化、伝統、習慣などについてたくさんの質問をしました。滞在中、冷風浴場（きのこ栽培所）、石炭博物館とごみ埋立地へ視察に行きました。ごみ埋立地でごみの最終処理や最終処理場の利用（最終処理場でスポーツ施設、公園、子供用施設などを建築する）について話を聞きました。石炭博物館で韓国における石炭産業の発展を見て、石炭の採取技術や使われている設備について聞きました。きのこ栽培所できのこのジュースを試飲し、きのこの育て方などを見ることが出来ました。

シンポジウムのスケジュールはとても面白かったので、ホームシックになる暇がありませんでした。このような事業の数をできるだけ増やして、継続的に実施したほうがいいと思います。シンポジウムの印象はとてもよかったです。海外で大勢の新しい友達ができとても嬉しいです。出来るだけ多くの子供たちがこのような事業に参加できるようにしたいと思います。シンポジウムの開催者の皆様、どうもありがとうございました。

○韓国 忠清南道参加者

今回環境シンポジウムに参加が決まった時、私はあまり楽しみにしていませんでした。国が異なるため言葉も分からないし、対外的に和解ムードではない今は、互いに誤解と偏見があるだろうと思ったからです。しかし、シンポジウムが始まったら私の考えは余計な心配であったことがわかりました。我々は環境に対する思いで互いに一つになることができました。

シンポジウム一日目は環境問題に対して各国の参加者が各自の意見を発表しました。国籍が異なり言葉が違っても、環境を考える心は一緒であることがわかりました。午後から

は午前中の発表のとき学んだ内容を直接外に出て体験しました。漂着物の調査では海の汚染が深刻であることがわかり、最も大切なことは、海水浴客の意識により、自分のゴミは自分が処理するなどの基本的な活動が優先されることだと思いました。また、水質測定については、学校ではできない実習ができてとてもいい勉強になりました。そして、その日の夜に交流会が開かれ、この時間を通して他国の友達と大切な友情を分かち合うことができました。交流会が終わってから、日本の友達に誘われて彼らの部屋に行ってたくさん話をしました。

私は今回の環境シンポジウムに参加してたくさんを経験しました。国と言葉と皮膚の色は異なりますが、シンポジウムに参加した皆が、「環境は私たちが大事に守り、次の世代に引継がなければならない一番大事なものである」ことを認識していることを学びました。私の願いは、これからの各国の交流が永久的に継続され、より意味のあるシンポジウムになることです。

最後に、今回の環境シンポジウムは、私のこれからの人生において非常に良い経験として記憶されることと思います。

○韓国 忠清南道参加者

今回のシンポジウムは、北東アジア 4 カ国の青少年が集まり環境保全について話し合い、論議する場でした。私たちは、今まで活動した環境保全活動を発表するため資料を作成し、環境家計簿を作るなどたくさんの準備を進めてきました。

私たちは一生懸命に発表し、他国から来た友達が発表するのを聞きました。他国の友達はみんな上手に発表していました。私たちはインターネットから水質保全の方法を知らせる程度でしたが、他国の友達は一ヶ月から 2 年にかけて、自分たちが直接活動したことを発表していました。また、他国では今回の環境シンポジウムのためではなく、日ごろから環境に関心を持って環境保全活動を行っているようでした。

発表が終わった後、午後からは透視度、COD、pH の測定法を学びました。COD と pH はパックテストという方法を使い、私たちも手軽に測定することができました。その後、デチョン海水浴場に行って海辺の漂着物調査をしました。海辺の漂着物には海水浴客が捨てた物もありますが、隣国から海を流れてきた物も多いそうです。海の環境を保存するのは国際的に重要なことであると思いました。私たちの地元だけではなく、北東アジア 4 カ国の環境を保全するために日ごろから取り組まなければならないと思いました。夕食後の交流活動では、ダンス、歌、などたくさんの面白いレクリエーションをしました。今回の交流活動を通じてたくさんの友達ができ、夜は日本の友達と話をし、まくら投げをしてより仲良くなりました。

シンポジウムでは、環境の大切さを学び、北東アジア各国との交流もできたいい機会になりました。これからも環境に関心を持ち環境を保護するように努力しなければならないと思いました。

○韓国 忠清南道参加者

北東アジア4カ国の青少年環境シンポジウムに参加する話を聞いて、とても嬉しい反面、このような経験は初めてなので非常に緊張しました。発表の参考資料を集める際にはたくさんの方の話を学びました。そして、環境について、水質汚染について、そして私たちの周辺環境がいかに破壊されているのかがわかりました。

初日、期待に膨らんでいた気持ちを落ち着かせて忠南の臨海修練院に行きました。

次の日、朝食の時に昨日はいなかった他国の参加者たちがいました。とてもめずらしく、話をすると楽しいだろうと思いました。開会の挨拶の後、用意していたプレゼンテーションの発表の時間を迎えました。とても緊張した瞬間で、何とか終わらせたものの身体中が汗だらけになりました。午後は、水質測定の実習をしました。学校ではすることができない実習はすごく面白かったです。CODとpHの測定にはパックテストを用い、とても手軽にできる方法でした。その後、海水浴場に行って漂着物の調査をしました。夕食後に交流会が開かれました。交流会を通じてお互いに親密になり、外国の友達ともたくさん話をし、仲良くなりました。

三日目、午前中は講義を聞き、午後は石炭博物館と冷風浴場などを見学しました。私が行ったことのない所もあり、とても良い経験でした。

三泊四日という短い時間であったが、素晴らしい経験がたくさんできてよかったと思います。少し残念だったのは、講義よりも私たちが直接できる実習がもっと多かつたらということです。そして交流会が初日にあつたらもっといいのではないかと思います。とにかく、このような機会がまたあつたら、今回以上に一生懸命に取り組みたいと思います。

○韓国 江原道参加者

江原道春川市から5時間もかけてやっと着いたところは、忠清南道保寧市の臨海修練院でした。着いてしばらくすると、たくさんの方の韓国の学生が部屋に入って来ました。最初はギクシャクしてなかなかなじみませんが、段々親しくなりたくさん話ことができました。

シンポジウムで、私たちは環境について話し合いましたが大変有意義な経験でした。自然環境の実態について詳しく分かるようにもなりました。また、大川海水浴場に行って漂着物を拾い、海ではどういうゴミが出るのかも分かるようになりました。最初は、きれいだと思っていた海辺も、集められたゴミは相当の量で本当に驚きました。そういうゴミが他の国の海に流れ込み、水質を汚染させているとは……。つまり「私一人位は良いだろう」という考えが地球を痛めているということもわかりました。こういう貴重な経験を通じ、これからはゴミを見たら知らないふりをしないと一人で決心しました。

始めは行きたくもなかったし、何をすることも知りませんでしたが、参加してみたらたくさんの方の友達ができ、また環境についても色々勉強ができました。何より、自然の大事さ

を分かる良いきっかけになり嬉しかったです。2泊3日の間、大変有意義で楽しい環境シンポジウムでした。